

文化庁
優秀映画作品賞
優秀映画鑑賞会
推 薦

文部省選定

伝統工芸の名匠

変幻自在

— 田口善国・蒔絵の美 —



「変幻自在・田口善国蒔絵の美」

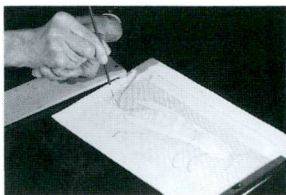
やぎはし しん
——柳橋 眞——
(金沢美術工芸大学教授)

漆芸の代表的な装飾技法は蒔絵まきえです。もちろん漆芸には線彫りで文様をつける沈金ちんきんや蒔髹まきま、漆のかたまりを彫刻する彫漆ちやうしつなどといった装飾がありますが、技法の種類の豊富さ、世間にみられる作品の量の多さからいって、群をぬいた存在といえましょう。ちょうど陶芸の色絵磁器や染織の友弾などの関係と似ています。

蒔絵の基本は金粉を蒔いて文様をあらわすことです。まず漆液を筆につけて文様を描きますが、粘着力のある漆のことですから、勢いのよい線をひくには修練が必要です。その漆の上に金粉きんぷを粉筒ふんづつに入れて蒔きますが、その粉筒を弾く指の動きの違いで金粉がいろいろな散り方をします。あたかもピアノを弾く指やバイオリンの糸をおさえる指のように素早く変化します。次に金粉の上に漆を塗りこめ、十分に乾いて固くなったら、炭などで研ぎます。丸い金粉の半球ほどで研ぎをやめると最高に輝きますが、それ以上研ぎ続ければ金粉も文様も消滅してしまいます。

以上、みただけでも蒔絵技法の困難がおわかりいただけるでしょう。今回の記録映画で、重要無形文化財「蒔絵」保持者である田口善国のまさに神技といえる蒔絵技法がみられます。現代の蒔絵は金粉を蒔くだけでなく、貝の板や粉末、金銀などの板金いたがねなどさまざまな美しい素材を使って文様をあらわします。また平らな面ばかりでなく、地を微妙に盛りあげる高蒔絵たかまきえなどの技術も併用して効果をあげます。

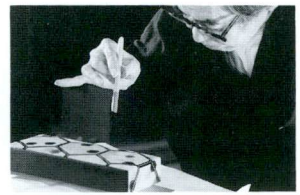
今回、田口善国は自分の家に巣を作った蜂を観察することからはじめ、女王蜂を大きく高蒔絵であらわし、蜂の巣を貝など美しい素材で飾りました。最高の作家は最高の職人であることを示します。しかし、それだけでは変幻自在とよばれる田口芸術の魅力は語られません。主題の蜂の気持になりきって創作が進められる過程、若い時に中尊寺金色堂の修理をしながら悟った創作の真髄を語る言葉など、漆芸にたずさわる人はもとより、漆芸の広い愛好者にとっても、見落すことのできない貴重な記録映画だと自信をもって推薦できます。



和紙の下図おきまに置用意に絵漆で蜂を描く。



黒い蠟色漆での上塗り。



金粉を微妙に蒔きかける。

『変幻自在——田口善国 蒔絵の美』を演出して

黒崎 洋一

(記録映画監督)

「我々にとって、一本の草も、一羽の鳥もすべて聖なるものです。すべての人間の魂、そしてすべての生きとし生けるものの魂は聖なる存在なのです。」1970年代にアメリカのインディアン開放運動を展開したデニス・バンクスの言葉である。この言葉を僕はそのまま田口善国氏に捧げたい。

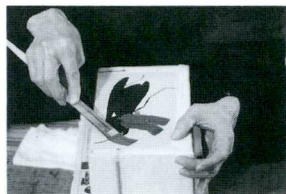
田口さんの作品には実に様々な生物達が登場し、生き生きと、しかも極めて美しく大胆に表現されている。例えば、漆黒の闇の中で鋭いまなざしを見せるフクロウ。仄暗い秋草に潜み美しい羽を広げる鈴虫。夏の水面に消えようとするウスバカゲロウ。きらめく草原に身をおくバッタ。やがてバッタは飛翔し輝く薄羽を見せる。まさに変幻自在な田口さんの意匠……。しかしそれらの意匠は単に生き物たちが美しいとか可愛いとか、そういった単純な発想が生み出したものではない。小さな虫の魂、一本の草木の精を確信し、さながら人間と会話するかのよう、彼等と交信しあえるという田口さんの独特な魂があつた不思議に美しい作品を生み出しているのだ。この田口さんの、いわば聖なる魂に気づいたのは、今回の「王蜂蒔絵飾箱」の制作過程を撮影し追いつける中で、幾度となく田口さんにインタビューを試みた果てであった。

田口さんは「王蜂蒔絵飾箱」を、螺鈿、乾漆粉や金粉による蒔絵、線描、さらに主役である王蜂への高蒔絵と、それこそ変幻自在な技を駆使し製作していったが、そのプロセスで、夜光貝への思いを語り、王蜂への思いを語り、小さな虫達への熱い思いを語ってくれたのだ。

この映画では、田口さんの卓越した蒔絵の技を紹介しつつ、一方で生きとし生けるものへの田口さんの熱い想いが聞こえてくるように構成してみた。映画の中で聞こえてくる田口さんの言葉に耳を傾けて欲しい。現代人が忘れかけている精神、つまり小さな虫達の魂や草木の精について、それらが如何に素晴らしいものであるかを改めて思い起こさせてくれるかも知れません。



蒔絵筆でいっきに線をひいていく。



微妙な肉盛りをつけていく
高蒔絵の技。



高蒔絵の蜂に“ひっかき”の技を
ほどこす。



王蜂蒔絵飾箱（平成5年作）



「水鏡蒔絵水指」（昭和45年作）



蒔絵棚「煌めく」（平成3年作）

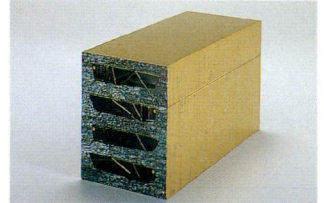
作品名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉
「変幻自在」

—田口善国・蒔絵の美—
(35mm/カラー/36分)

企 画：財団法人 ポーラ伝統文化振興財団
製 作：株式会社 日経映像
監 修：柳橋 真

製作スタッフ

製 作・小谷田 亘
監 督・黒崎洋一
脚 本
撮 影・大木大介
照 明・松橋仁之
撮影助手・阿部宏之
助 監 督・小林源太郎
音楽/効果・中島茂之
原版編集・井上正司
語 り・佐藤 慶
録 音・東京テレビセンター
現 像・IMAGICA

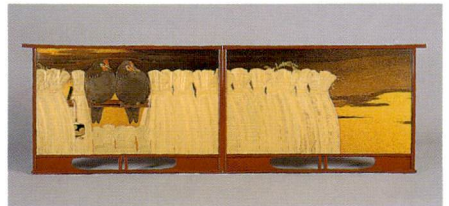


「野原蒔絵」小箱（昭和43年作）



蒔絵飾箱「日蝕」（昭和38年作）

協 力：東京国立近代美術館
金沢市立中村記念美術館
中 尊 寺



風炉先屏風「みのりの朝」（昭和21年作）

作品撮影：大堀一彦

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture
財団法人 **ポーラ** 伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597

TEL.03@1,000 09.12